

リウマチ 膠原病内科外来 を開設しました



2024年5月より、リウマチ・膠原病内科外来が開設されました。どんな役割の外来なのか、簡単に説明いたします。

（この欄は白紙で表示されています）

1. 関節リウマチについて

「リウマチ」と呼ばれる疾患には、実は様々な種類のものが含まれますが、その中でも特に注意が必要な疾患が関節リウマチです。手足の節々（すなわち関節）が慢性的に腫れて痛むのが特徴で、特に朝起きた直後には、手足が固まったように感じる事が多いです。放置すると関節の機能が低下して、家事や仕事に支障をきたす場合があります。

2. 高齢者の関節リウマチ

関節リウマチはこれまで、若年から中年期の女性に多く発症するものと考えられておりました。しかし、近年では高齢者の関節リウマチが増加しており、男性が発症することも珍しくありません（図を参照）。

高齢者の関節リウマチは、若年者のそれと比べて診断が難しい場合が多いことが知られております。その理由のひとつが複合性、すなわち様々な原因が重なり合って症状を形成している可能性があることです。例えば、加齢とともに増えてくる変形性関節症は、関節リウマチと同じく関節痛を起こす疾患です。両者を見分けることが難しい場合もありますし、両方とも発症する場合があります。このため、関節リウマチの患者さんが「この痛みは（加齢によるものだから）仕方がない」と、見過ごされてしまうケースは少なくありません。もし関節リウマチであれば投薬治療で症状が改善することが多いため、手足の痛みにお悩みの方はぜひ一度ご相談ください。



3. 指定難病について

リウマチ・膠原病外来で担当する代表的な疾患は以下の通りです。

関節リウマチ、脊椎関節炎（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎など）、リウマチ性多発筋痛症、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎／皮膚筋炎、混合性組織結合病、シェーグレン症候群、成人スチル病、ベーチェット病、血管炎症候群（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安静脈炎、巨細胞性動脈炎など）、IgG4 関連疾患、家族性地中海熱

これらの疾患には「指定難病」が多く含まれます*。国が「難病の患者に対する医療等に関する法律」に定められている基準に基づいて、医療費助成制度の対象としている難病のことです。他施設で既にこれらの疾患と診断されている方について、当院で診療を引き継ぐことが可能です。

*関節リウマチなど一部の疾患は指定難病に含まれません。また、指定難病であっても重症度によっては医療費助成制度の対象外となる場合があります。

4. 近隣の医療機関の先生方へ

当外来では地域にお住まいの方々を中心に、リウマチ・膠原病の患者さんを積極的に受け入れていく所存でございます。

非常勤医による外来診療のみの対応となりますので、入院診療が必要と判断された場合には他施設に紹介する場合がございます。また、開設から日が浅く、すべての治療薬を準備できてはおりませんので、診療の引き継ぎについてご依頼いただける場合には、あらかじめ紹介状をご送付いただけますと幸いです。特に分子標的薬（生物学的製剤、JAK 阻害薬）を使用されている場合には、事前にご相談いただいた方がスムーズかと存じます。

地域医療に貢献できるよう尽力して参りますので、何卒お力添えの程よろしくお願い申し上げます。

（図：関節リウマチ患者さんの発症年齢の推移）

